

【ヤコブの手紙2章】

「行いのない信仰は、死んでいるのです。」(2:26b)

ここにはアブラハムとラハブの事が載っています。アブラハムの事はいつも学んでいます。たまには失敗もしましたが、信仰の父として尊敬された人でした。しかしここに出てくるラハブは、何と遊女だったのです。このラハブが命がけの信仰で、イスラエルのスパイをかくまったことで、自分も家族も救われたという話です。

ラハブの記事は「ヨシュア記」2章に載っています。ヨシュアはモーセから引き継いで、エリコの町を攻め取るために2人のスパイを先に遣わします。当時のカナンの主な町には、自分たちの神々を祭る神殿があって、「神殿娼婦」といわれる人たちがいました。ラハブは、そのひとりであったと思われます。ヨシュアから遣わされたスパイは、神殿娼婦の家なら外部の人間がもぐりこみやすいとも考えたのでしょう。ラハブが王に逆らってまで、なぜ2人の斥候をかくまったのでしょうか？

第1それは彼女が、自分たちの神々を拝んでいるような中であっても、**イスラエルの民を導いた神こそが、本当の神だと信じるようになっていたから**です。「イスラエルの民が葦の海（紅海）を渡ったこと、そしてシホンとオグを聖絶したことなど」を彼女は聞いて知っていたのです。(ヨシュア2:10)「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」(ローマ10:17)

第2にラハブは、神を恐れる信仰を持っていました。ラハブは、神がその力あるわざによって、ヨルダン川の東の王たちを裁かれ、今、エリコの町を裁こうとしておられるということを耳にしました。ラハブは、迫ってくる神の裁きを感じ取り「私があなたがたに真実を尽くしたように、あなたがたもまた私の父の家に真実を尽くすと、今、主にかけて私に誓ってください。」(ヨシュア2:12)と交換条件を出して救いを求めました。

第3に、ヨシュア2:13「私の父、母、兄弟、姉妹、また、すべて彼らに属する者を生かし、私たちのいのちを死から救い出してください。」と言っていますが、家族の救いを切に願っていました。「私たちが、この地に入って来たなら、あなたは、私たちをつり降ろした窓に、この赤いひもを結びつけておかなければならない。」とスパイに言われた通りにしました。この“赤いひも”こそ過ぎ越しの小羊の血であり、イエス・キリストの流された血潮を表しています。このラハブの命がけの信仰は家族を救い、子々孫々に至るまで、大いなる祝福をもたらしました。

ヘブル11:31「信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。」異教徒しかも遊女ラハブはボアズを生み、ボアズの妻がルツということは、ダビデのお婆さんです。「ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。」(マタイ1:17)つまり、このラハブは何とイエス・キリストの家系に記録されているのです！

ラハブが見聞きしていた事を主の語り掛けとして聞き、決断した信仰によって、実は歴史が大きく動くほどの事に貢献したことになりました。私達は小さな者であっても、ラハブの様に勇気を持って危険をも顧みずに主に聞き従うことによって、自分も家族親族も救われ、更に大いなる神の愛のご計画にあずかることが出来るのです。

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2013.8.11 No.749

今年のみ言葉

天よ。耳を傾けよ。私は語ろう。
地よ。聞け。私の口のことばを。
私のおしえは、雨のように下り、
私のことばは、露のようにしたたる。
若草の上の小雨のように。
青草の上の夕立のように。

私が主の御名を告げ知らせるのだから、

栄光を私たちの神に帰せよ。

主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。

主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

申命記32:1~4



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlcccfrh/>